



令和9年5月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

令和8年9月17日

上場会社名 ファーマライズホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2796 URL <https://www.pharmarise.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 秋山 昌之
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役執行役員 (氏名) 寺本 尚徳 (TEL) 03-3362-7130
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 令和9年5月期第1四半期の連結業績(令和8年6月1日～令和8年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
9年5月期第1四半期	17,242	2.9	68	△54.8	79	△31.3	△36	—
8年5月期第1四半期	16,753	10.0	152	188.5	115	399.1	△18	—

(注) 包括利益 9年5月期第1四半期 △43百万円(—%) 8年5月期第1四半期 △24百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
9年5月期第1四半期	△3.20	—
8年5月期第1四半期	△1.62	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
9年5月期第1四半期	31,221	6,657	20.6
8年5月期	32,680	6,859	20.3

(参考) 自己資本 9年5月期第1四半期 6,433百万円 8年5月期 6,633百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
8年5月期	—	0.00	—	14.00	14.00
9年5月期	—	—	—	—	—
9年5月期(予想)	—	0.00	—	14.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和9年5月期の連結業績予想(令和8年6月1日～令和9年5月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	35,181	4.7	359	△10.0	276	△16.0	△44	—	△3.90
通期	70,604	1.6	1,014	3.5	736	2.9	11	△90.0	0.99

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料 9 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	9 年 5 月期 1 Q	12,060,381株	8 年 5 月期	12,060,381株
② 期末自己株式数	9 年 5 月期 1 Q	557,856株	8 年 5 月期	557,856株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	9 年 5 月期 1 Q	11,502,525株	8 年 5 月期 1 Q	11,360,905株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料 4 ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	10
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（令和8年6月1日から令和8年8月31日）におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や、各種政策の効果により、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、中東情勢の影響や金融資本市場の変動に加え、国内の物価上昇も継続しており、先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは令和7年6月25日に公表した中期経営計画「Make a Leap 2027 足場を固め、さらなる飛躍へ」（以下、本中計）に基づき、新たにグループ入りした会社・店舗のPMI（M&A後の統合プロセス）を推進するとともに、かかりつけ薬剤師・薬局としての機能強化を図り、経営基盤の強化に取り組んでおります。

本中計では、新たにミッション・ビジョン・バリューを再定義し、グループ全体として「地域の患者に選ばれ信頼される調剤薬局グループ」、「特に高齢者の健康維持・医療・介護ニーズにきちんと寄り添う調剤薬局グループ」を長期的なゴールに掲げ、以下の成長戦略に対し、タスクフォースを設定して推進しております。

（調剤薬局事業）

①薬剤師のかかりつけとしての機能強化

②患者中心の薬局運営の継続

③応需処方せん枚数増加に向けた取り組みの徹底

（その他）

④M&A対応の高度化

⑤調剤薬局事業以外の既存事業の再構築

⑥企業としての持続的な成長（サステナビリティ）の推進

令和10年5月期には、売上高700億円、営業利益16億円、ROIC4.5%の達成を目指しております。

さて、当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高17,242百万円（前年同期比2.9%増）、営業利益68百万円（同54.8%減）、経常利益は79百万円（同31.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は36百万円の損失（前年同期は18百万円の損失）となりました。

売上高においては、主に調剤薬局事業における令和8年6月の調剤報酬改定による減収要因がありましたが、前連結会計年度のM&Aによる店舗数拡大にともなう調剤売上高の増加により増収となりました。

利益面においては、主に調剤報酬改定、薬価改定による仕入れ環境の変動及び処方日数の長期化による影響で原価率が上昇し、前年同期比で営業利益及び経常利益は減益となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は赤字となりました。

なお、セグメントごとの業績は以下のとおりであります。

（調剤薬局事業）

令和8年2月にグループ入りした株式会社三幸メディカルグループの寄与により店舗数が増加し、応需処方せん枚数及び売上高は増加いたしました。一方で、調剤報酬改定、薬価改定による仕入れ環境の変動及び処方日数の長期化の影響により、原価率が上昇いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における調剤薬局事業の売上高は14,474百万円（前年同期比2.3%増）、セグメント利益は158百万円（同32.6%減）となりました。

当第1四半期連結会計期間末における調剤薬局店舗数は、前連結会計年度末から2店舗増加、3店舗減少の405店舗となりました。

薬局運営面につきましては、本中計の成長戦略に基づいた①薬剤師のかかりつけとしての機能強化、②患者中心の薬局運営の継続、③応需処方せん枚数増加に向けた取り組みの徹底、以上についてタスクフォースを設置して取り組みを続けております。

②におきましては、相談目的の来局者の増加を目的とした施策を推進しました。当社オリジナルの認知症カフェである「カフェにゃーまらいず」は令和8年8月末時点で140店舗において開催し、延べ2,178名の参加がありました。これにより、健康相談や薬局未利用者との接点創出につながった事例も報告されております。また、自治体・地域包括支援センター等との連携強化を進めるとともに、夏休み期間における「子ども薬剤師キャラバン」の開催を通じて、子ども世代やその保護者との新たな接点づくりに取り組み、地域における認知度向上及び患者基盤の拡大に努めております。

また、③に向けた取り組みとして、在宅・施設調剤への対応強化を継続して進めております。医療機関や介護事業者等との連携を強化し、在宅・施設調剤案件の獲得に力を入れた結果、当第1四半期連結累計期間における地域医療（在宅・施設調剤）の処方せん枚数は153千枚（前年同期比1.8%増）となったものの、売上高は調剤報酬改定の影響で1,137百万円（同1.2%減）となりました。

（物販事業）

コンビニエンスストア部門における売上高は堅調に推移したものの、ドラッグストア部門においては伸び悩みました。ドラッグストアの新規出店に向けた人材確保及び運営体制整備に係る先行的な費用の発生に加え、商品原価率の上昇等がありました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における物販事業の業績は、売上高は2,060百万円（前年同期比0.9%減）、セグメント利益は33百万円の損失（前年同期は4百万円の損失）となりました。

また、当第1四半期連結会計期間末における店舗数は、前連結会計年度末から1店舗増加の41店舗（調剤併設店舗を含めた場合は53店舗）となりました。

（医学資料保管・管理事業）

医学資料の保管料収入は堅調に推移し、労務費等の費用削減が図られた一方で、前連結会計年度に発生した一時的な保管資料廃棄案件に係る収入の反動減がありました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における医学資料保管・管理事業の業績は、売上高は138百万円（前年同期比12.2%減）、セグメント利益は4百万円（同72.6%減）となりました。

（医療モール経営事業）

売上高は堅調に推移しているものの、一部テナント医療機関の空室により賃料収入が減少し、減益となりました。当該空室についてはテナント誘致活動を進めております。

この結果、当第1四半期連結累計期間における医療モール経営事業の業績は、売上高は123百万円（前年同期比3.6%減）、セグメント利益は18百万円（同19.7%減）となりました。

（その他）

令和8年2月にグループ入りした株式会社三幸メディカル等による医薬品卸売事業の寄与があり、売上高が増加いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるその他事業の業績は、売上高は445百万円（前年同期比89.2%増）、セグメント利益は5百万円（前年同期は35百万円の損失）と黒字転換いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産の残高は31,221百万円（前連結会計年度末比1,459百万円減）となりました。主な要因は、商品及び製品が3,637百万円（同923百万円増）、未収入金が3,111百万円（同473百万円増）となった一方で、現金及び預金が2,941百万円（同3,071百万円減）となったことによるものであります。

(負債)

負債の残高は24,563百万円（前連結会計年度末比1,257百万円減）となりました。主な要因は、買掛金が7,015百万円（同388百万円増）となった一方で、その他（流動負債）が1,271百万円（同974百万円減）、長期借入金が9,167百万円（同642百万円減）となったことによるものであります。

(純資産)

純資産の残高は6,657百万円（前連結会計年度末比202百万円減）となりました。主な要因は、配当金の支払等により利益剰余金が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和8年6月25日付の決算短信で公表いたしました令和9年5月期の連結業績予想に変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (令和8年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (令和8年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,012	2,941
売掛金	1,120	1,339
商品及び製品	2,713	3,637
原材料及び貯蔵品	99	89
未収入金	2,638	3,111
その他	596	881
貸倒引当金	△17	△15
流動資産合計	13,164	11,985
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,525	3,623
土地	3,227	3,247
その他（純額）	868	806
有形固定資産合計	7,621	7,677
無形固定資産		
のれん	7,257	7,044
その他	345	313
無形固定資産合計	7,602	7,357
投資その他の資産		
その他	4,380	4,288
貸倒引当金	△87	△87
投資その他の資産合計	4,292	4,200
固定資産合計	19,516	19,235
資産合計	32,680	31,221

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (令和8年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (令和8年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,627	7,015
1年内返済予定の長期借入金	4,781	4,663
未払法人税等	347	114
賞与引当金	8	324
その他	2,246	1,271
流動負債合計	14,010	13,389
固定負債		
長期借入金	9,810	9,167
退職給付に係る負債	1,054	1,070
資産除去債務	246	244
その他	698	690
固定負債合計	11,810	11,173
負債合計	25,820	24,563
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,961	1,961
資本剰余金	2,091	2,091
利益剰余金	2,893	2,697
自己株式	△376	△376
株主資本合計	6,570	6,374
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	63	59
その他の包括利益累計額合計	63	59
新株予約権	208	208
非支配株主持分	17	15
純資産合計	6,859	6,657
負債純資産合計	32,680	31,221

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和7年6月1日 至 令和7年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和8年6月1日 至 令和8年8月31日)
売上高	16,753	17,242
売上原価	14,520	15,008
売上総利益	2,232	2,234
販売費及び一般管理費	2,080	2,165
営業利益	152	68
営業外収益		
受取利息	3	6
受取配当金	0	0
受取賃貸料	13	11
保険解約益	—	92
その他	12	15
営業外収益合計	29	125
営業外費用		
支払利息	61	95
賃貸原価	3	7
その他	1	11
営業外費用合計	65	115
経常利益	115	79
特別利益		
固定資産売却益	15	0
補助金収入	3	11
特別利益合計	18	12
特別損失		
固定資産売却損	—	1
固定資産除却損	0	0
固定資産圧縮損	2	11
特別損失合計	2	12
税金等調整前四半期純利益	131	78
法人税等	153	117
四半期純損失(△)	△22	△38
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△3	△1
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△18	△36

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和7年6月1日 至 令和7年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和8年6月1日 至 令和8年8月31日)
四半期純損失(△)	△22	△38
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	△2	△4
その他の包括利益合計	△2	△4
四半期包括利益	△24	△43
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△28	△41
非支配株主に係る四半期包括利益	3	△1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間（自 令和7年6月1日 至 令和7年8月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	調剤薬局 事業	物販事業	医学資料 保管・ 管理事業	医療 モール 経営事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	14,151	2,079	157	128	16,517	235	16,753	—	16,753
セグメント間の内部売上 高または振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	14,151	2,079	157	128	16,517	235	16,753	—	16,753
セグメント利益または損失 (△)	235	△4	15	23	270	△35	234	△82	152

(注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない人材派遣事業、製薬企業等向けのシステムインテグレーション事業等が含まれております。

2 セグメント利益または損失(△)の調整額△82百万円は、報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益または損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間（自 令和8年6月1日 至 令和8年8月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	調剤薬局 事業	物販事業	医学資料 保管・ 管理事業	医療 モール 経営事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	14,474	2,060	138	123	16,796	445	17,242	—	17,242
セグメント間の内部売上 高または振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	14,474	2,060	138	123	16,796	445	17,242	—	17,242
セグメント利益または損失 (△)	158	△33	4	18	148	5	153	△84	68

(注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない人材派遣事業、製薬企業等向けのシステムインテグレーション事業等が含まれております。

2 セグメント利益または損失(△)の調整額△84百万円は、報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益または損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む）及びのれん償却額は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和7年6月1日 至 令和7年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和8年6月1日 至 令和8年8月31日)
減価償却費	181百万円	184百万円
のれん償却額	195百万円	213百万円